



OCP-IP が英語版のコンプライアンスチェックをリリース

オレゴン州ポートランド— 2005年 10月 25日— Open Core Protocol International Partnership (OCP-IP) は本日、OCP インターフェイスの信号に関する「法律上の」制約を記述した公式の英語版コンプライアンスチェックをメンバーが入手可能になったことを発表します。コンプライアンスチェックを利用することにより、エンジニアは勘に頼ることなく OCP インターフェイスの仕様への準拠性を確認できるため、検証品質が保証され、IP ブロックの互換性がシステムレベルで維持されます。

コンプライアンスチェックでは、OCP 仕様のルールセットが定義されています。制約は、「信号が決して 0 ではないことをチェックする」ような単純なものから、複雑かつ一時的な発現まで対応可能です。機能的または形式的検証でチェックに対する違反が存在しない場合、そのロジックがプロトコルに準拠していることが保証されます。

コンプライアンスチェックは、さまざまな方法で利用できます。形式ツールを使用すると、設計がいかなる場合でもチェックに違反しないことを確認して、OCP への準拠性を保証できます。同じチェックを使って、特定の制約がヒットした回数を確認することもできます。機能検証ツールを使用すると、これらのプロパティを利用して (Verilog/VHDL/E/SystemC で) プロトコルチェッカーを作成できます。DUT (Design Under Test) に刺激を適用して、プロトコルチェッカーで違反がレポートされないことを確認することで、OCP への準拠性を検証できます。

コンプライアンスチェックに関する作業は、Jeda Technologies、MIPS、Sonics Inc、Synopsys、Texas Instruments、TransEDA、Yogitech からの代表者を含む OCP-IP Functional Verification 作業部会により行われました。

OCP-IP の Ian Mackintosh 会長は、次のように語っています。「OCP の保持する堅牢で活気のあるインフラストラクチャは、優れたサービスや製品を提供している多数の独立系企業によりサポートされています。OCP-IP の Functional Verification 作業部会により成し遂げられた、この最前線の分野での業績を誇りに思います。」

メンバーは、www.ocpip.org
内のメンバー専用ページからコンプライアンスチェックをダウンロードして評価できます。

OCP-IPについて

OCP International Partnership Association, Inc. (OCP-IP) は2001年、相互接続が可能な仮想コンポーネントの迅速な作成と統合を保証する完全なソケット規格として、Open Core Protocol (OCP) を推進、サポートする目的で発足しました。OCP-IPの Governing Steering Committee

にはNokia社[NYSE: NOK]、Texas Instruments社[NYSE: TXN]、STMicroelectronics社[NYSE: STM]、東芝セミコンダクターグループ (TAEC東芝アメリカ電子部品社を含む)、Sonics社が参加しています。OCP-IPは非営利団体で、完全に支援されたオープンライセンス方式のコア中心プロトコルを初めて提供しました。OCPはIPコアの再利用を容易にし、SoC設計期間やリスク、製造コストを軽減します。VSIAはOCPソケットを支持していて、OCP-IPはVSI Alliance に加入しています。詳しい背景やメンバーシップ情報については、www.OCP-IP.orgをご覧ください。

すべての商標およびサービスマークはそれぞれ各社の所有物です。

OCP-IP Association, Inc.
5440 SW Westgate Drive, Suite 217, Portland, Oregon 97221 USA
Tel: 1-503-291-2560 Fax: 1-503-297-1090
E-mail: admin@ocpip.org
www.ocpip.org